文科省が次亜塩素酸水溶液の禁止通達を変更。空間噴霧も可能に。

2020年6月16日、文科省が6月4日付の通知文を修正しました。次亜塩素酸水溶液について「噴霧をしないで下さい」との文言を削除し、「メーカの取扱説明書や、学校医、学校薬剤師の助言を受けて下さい」という表現に変えて通知しなおしています。

文部科学省は6月4日付けの事務連絡「学校における消毒の方法等について」で学校で次亜塩素酸水を噴霧するときは「児童生徒等がいる空間で使用しないでください」と通達していましたが、6月16日の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」で有人空間に噴霧することができると使用を認めました。これは経産省・NITEの有効性と安全性に関する中間発表ファクトシートQAが変更されたことに伴う修正で、新しい通達では「メーカーが提供する情報、厚生労働省などの関係省庁が提供する情報、経済産業省のファクトシートなどをよく吟味し、使用について判断するようお願いします。なお児童生徒等の中には健康面において様々な配慮が必要な者がいることから使用に当たっては学校医、学校薬剤師等から専門的な助言を得つつ、必要性や児童生徒等に与える健康面への影響について十分検討してください。」となっています。

全国の研究者、メーカー、ユーザーなどで結成された次亜塩素酸水溶液普及促進会議では次亜塩素酸水溶液の効能と空間噴霧の安全性についてホームページで発信しております。（6月11日福崎教授の効能と空間噴霧の安全性動画を追加）
→ https://jia-jp.net/

この中にすべてが記載されています
是非ご覧ください

この中で普及促進会議では今回の文科省通達変更で学校現場で安心して使っていただけるように学校・教育現場向けのページを新設しましたのでこちらもご覧ください。

これから猛暑の時期がくる中で、教室の窓を開けたままの熱中症のリスクと、窓を閉めてクーラーで冷房をとることによるコロナウイルス感染のリスクが高まることの比較において、次亜塩素酸水溶液の空間噴霧よる教室の完全除菌とクーラーによる室内循環により床面などのウイルスが舞うことによる感染を防ぐために次亜塩素酸水溶液を正しく選び、正しく噴霧する方法など現場での取り扱い方を解説しております。

なお、次亜塩素酸水溶液普及促進会議は全国200社近いメーカー販売社から各社の持つ製品エビデンスの収集と健康被害の報告例の有無、NITE指摘の表示改善例などを調査しております。まとまりましたらホームページに掲載します。現在のところ各社多くの動物実験による安全性や有効性の試験結果を保有していることがわかり、空間噴霧による事故例は報告されていません。　（次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページより）

最近の次亜塩素酸水報道に対する私たちの見解

次亜塩素酸水が玉石混交の為色々騒がれております。
誤解している方もいますが、次亜塩素酸水がコロナウイルスに効かないなどとは誰も言っていませんし言えません。また空間噴霧は危険だという報道・発表も非常にいい加減なものです。

一番危惧することは
本来新型コロナウイルス対策の切り札となるべき次亜塩素酸水が誤報と取材不足と思い込みにより、普及しなくなることで、簡便に防げるはずの感染を増加させてしまう事です。今のところ「うまく次亜塩素酸水を使うこと以上に効果的で害のない予防法は無い」と私たちははっきり認識しています。

この状況を危惧した北海道大学玉城名誉教授と北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターが、NITEの中間報告対象と同じ条件下での第二弾の試験結果を発表しました。
次亜塩素酸水(PH5.5、40ppm)の新型コロナウイルスが30秒で不活化されたという発表です。

アキュテクト

次亜塩素酸水は製法、PH、濃度全てが大切であり、それが違うと違うものになりかねません。
創研製アキュテクトは弱酸性次亜塩素酸水で、もっとも安定していて、害が出にくいｐＨに調節されていること、化学合成された経時変化の遅い製品であることが最大の特徴です。

アキュテクトは10年以上の医療施設教育施設などでの実績と研究データを積み重ねており、人体への安全性の確認もなされています。15年にわたる使用経験上、健康被害の報告も受けていません。

安全性の確認

- **誤って飲んだら ⇒ 異常無し**
  単回経口投与実験(急性毒性実験)済み
- **皮膚や目に入っても大丈夫？ ⇒ 刺激無し**
  皮膚累積刺激実験・眼刺激性実験済み
- **アレルギーを起こすの？ ⇒ 感作性無し**
  感作性実験済み
- **発癌性は？ ⇒ 誘起する作用無し**
  復帰突然異変試験済み

当院では以下のことを既に確認しています。

- ●実際の医療現場でも**空間除菌できる事**
- ●**全ての菌に耐性なく有効である事**
- ●**作用機序から考えて耐性は生じえないと考えられる事**
- ●通常の使用で健康に問題は生じない事
- ●毒性のない事

勝手にデータを使用する業者・個人もあるためデータ集は一般公開はしておりませんが、来られた方に閲覧していただく事は出来ますのでご希望があればお申し出下さい。撮影はご遠慮申し上げます。
今回の騒ぎはコロナ騒ぎに便乗したいい加減な知識のない業者が適当な事を言い適当な製品を出していることが問題でありそれを淘汰するには良い機会だと思っています。

次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページから

大量空間噴霧の実際と可能性 海外採用例　東京工業大学特任教授 奈良林 直

（1）大量空間噴霧の実際と可能性
①病院・商業施設・省庁・スーパー・家庭内などの人の集まる場所の感染防止（予防保全）
②オフィスビルなどの業務再開による我が国および世界経済へのダメージの最小化。　猛暑のなかで冷房環境下でのウイルスを含んだ汚染空気の浄化必要　そうしないと熱中症が増える可能性がある。
■東工大でフィルタベントの原理を利用した装置開発中　　原発の安全対策設備の「フィルタベント」の中のプール水をアルカリ水から次亜塩素酸水に変 更すると、ウイルスを含む汚染空気中のコロナウイルスを 100%不活化して清浄空気を供給す ることができる。清浄空気は微量の HClO を含むが強制通風気化式の加湿器と基本的に同じ。
■将来的にはオフィスビル 1 棟または避難所用の大容量システムも可能（2000m3/h）。

（2）海外での次亜塩素酸水の採用例
①米国環境保護庁（EPA）のコロナウイルス殺菌対策 TPA では、コロナウイルス対策として 3 月 31 日付けで、次亜塩素酸を含む 8 種の適合消毒薬を暫定版として選定。
■適切な製品を使用すれば、COVID-19を引き起こすウイルスを殺すことができる。EPAは、 すぐに使えるスプレー、濃縮液、拭き取りなど、COVID-19に対して使用できる消毒製品のリス トをまとめた。各製品は、COVID-19 のウイルスよりも、強いウイルスに対しても効果的である。
②米国疾病予防管理センター（CDC）のコロナウイルス対策
■CDC が使う消毒剤は、EPA がリストに定めたものを使っている。
■特にコロナウイルス患者から他の入院患者病室への空気の混入がないように、HEPA フィ ルタなどを使った空気浄化や換気率の向上を求めている。 ■病院の固体表面（テーブル、手すり、床、医療機器のタッチセンサーの液晶面やボタンなど） がウイルスの付着が多く、感染源となるため、消毒の必要性を述べている。
■次亜塩素酸の低濃度でも強い酸化力が有効で、**次亜塩素酸水溶液は生物組織に無毒と 明記されている。**
③米国海運局（ABS）のコロナウイルス対策（2020 年 5 月）
■次亜塩素酸（電解水） 次亜塩素酸は細菌、真菌、ウイルスに対して非常に効果的。 使用される濃度は、消毒で例えば 50ppm であれば、皮膚を刺激せず、粘膜に対して非常に 穏やか。食品や接触面の消毒によく使用されている。
④中国国家衛生健康委員会の消毒指針
■次亜塩素酸水は、物体表面、医療器械、空気、手や皮膚、粘膜の消毒剤として有効な他、 感染地の道路や歩道、側溝の消毒剤としても使われている(タイヤや靴底からの感染対策)。
その他の海外事例は、「次亜塩素酸水普及促進会議」ホームページを参照下さい。
https://jia-jp.net/

極めて合理的な次亜塩素酸水の空間噴霧

現在家庭や医療施設・職場・学校でできる最も簡便・効果的かつ安全なウイルス対策です。
文部省や機関の報道には明らかな誤認識があると思っています。
ただしきちんとした製品を使用し使用法を守らなければ問題は起きえます。
その上でコロナウイルスやインフルエンザ対策としてご使用ください。

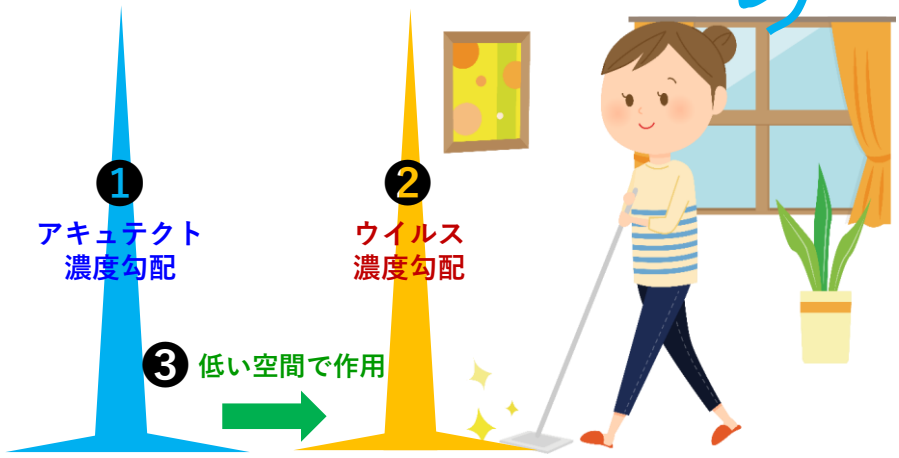
【噴霧器の問題】
なるべく細かい微粒子を噴霧できる噴霧器の方が、空間の滞留時間が長くなり優れています。

アキュテクト専用噴霧器HM201が最もお勧めです。

また噴霧器自体をなるべく高い位置に置いて噴霧した方が効率的です。床においてはダメです。

【換気の問題】
浮遊している菌は換気をすれば、ある程度希釈されて薄まりますが、換気だけでは下の方に多い付着菌や床の菌は減りません。

空間中の実際の次亜塩素酸濃度は極めて低く、作業環境許容濃度(超時間暴露して安全な量）から見ても全く問題ありません。



❶アキュテクトはどこに滞留するのか

上に吹き上げられた微細粒子は次第に落下を始め、やがて目に見えなくなります。目に見えなくなった微細粒子からは気体状の次亜塩素酸が揮発しています。実際は次々に上から落下してくるため床に近いほど次亜塩素酸の濃度が高く、そして天井に近くなるにしたがって低くなります。

❷菌やウイルスはどこに多いのか

微生物は浮遊するよりは何かに吸着したほうが安定するので、浮遊菌より付着菌のほうがはるかに多く、さらに床に近づくにつれ数が多くなります。なので土足や床からの感染が問題になったのです。

❸空間噴霧の微細粒子は落下して、膝から下に溜まっている菌やウイルスに効率よく作用します。
また、テーブルやイスなどの面にも溜まって除菌します。

つまり次亜塩素酸水の空間噴霧はとても効率的に生活空間を除菌しうるのです。
他にこのような事が出来る方法を私は知りません。

ただしきちんとした製品を使用し使用法を守らなければ問題が起きます。
その上でコロナウイルスやインフルエンザ対策としてご使用ください。
販売者の中にも全く知識のない方が多くいるようで、
それが今回の騒動を引き起こしている1つの原因です。

アキュテクトに関しては、この15年使用してきていただいて
健康被害は1件も寄せられていません。それが何よりの確証です。

6月12日NHKおはよう日本の報道について

NHKは5月28日のNITEの中間発表を自らの誤報により「次亜塩素酸水」はコロナウィルス対策に有効ではないかのような風評を日本に広めて結果的に感染対策を後戻りさせて感染を広げる危険な状況を作ってしまっています。
6月12日の「おはよう日本」では「次亜塩素酸水溶液」の有効性が疑わしいため利用者が不安になり店舗や学校、タクシー会社から撤去される取材を行い、早く有効なのか無効なのかをはっきりさせて欲しいとコメントしています。
自分でマッチで火をつけておいて火消しをするわけでもなく無責任なコメントをする厚顔な姿勢には公共放送機関としての役割に疑問を感じます。昨日6月11日に「次亜塩素酸水溶液」の有効性と安全性を研究者がサイエンスの世界で説明すると言う次亜塩素酸水溶液普及促進会議の記者会見にはNHKは取材参加していません。
経産省記者クラブ、厚労省記者クラブ、文科省記者クラブ、日本記者クラブにもリリースしてあった記者会見を無視したまま一部の研究者、業界では有効という主張をしているとワンフレーズで片付けています。
北海道大学や帯広畜産大学の研究チームが新型コロナウィルスには有効であると言う研究発表を行っているにもかかわらずNITEの試験結果を待つという公正さに欠ける報道です。
6月下旬に発表される経産省から有効性が発表されたときの批判をかわすための誤報修正のステップの一環と思われますがマッチポンプ以外の何者でもありません。
経産省が有効と発表したときにNHKは自社の誤報による社会の混乱と感染者の拡大についてどのように責任を認めるのかが問われます。
(6月12日 7:53掲載　次亜塩素酸水溶液普及促進会議ホームページより)